

令和4年度 二戸地域県立病院運営協議会 開催結果（要旨）

1 開催日時

書面開催による 意見等回答期間 令和5年2月7日（火）から2月22日（水）

2 開催場所

書面開催による

3 議事等

(1) 委員紹介

(2) 議事

- ①二戸地域における県立病院の運営について
- ②その他

[質問・意見等]

○ 小野寺美登委員（一戸町長）

- ・県立病院が県医療局の一体経営により黒字経営となっている事は大変良いと思います。しかし9病院が赤字であり、これの改善策はかなり厳しく、無理と思われるが、地域医療を守る為統廃合は行わないでいただきたい。議事については賛成です。

(回答)

【医療局】

県立病院では、20病院6地域診療センターの一体経営により持続的な医療の提供に取り組んでおり、「岩手県立病院等の経営計画〔2019-2024〕」において定めている機能・役割を果たしていくため、常勤医の配置や診療応援等により医療提供体制の確保に努めています。

今後の医療提供体制のあり方については、現在、令和6年度からを計画期間とする次期保健医療計画の検討が保健福祉部で行われていますが、この内容を踏まえ、関係団体、市町村、県民等と丁寧意見交換を行い、地域のニーズを踏まえて検討を進めていきます。

○ 林野栄五郎委員

- ・事例として数は多くはありませんが、夜間や休日などに救急で搬送された方について、入院の判断がなされなかった場合など、ご本人たちで帰れない状況の方の対応について、ケアマネジャーに情報が入ることがありますが、サービス提供事業者が営業時間や休みであれば、ケアマネジャーにも対応のしようがないケースがあります。病院側も対応にお困りになるケースだとは思いますが、配慮いただける仕組みがあれば、特に地域資源に乏しい県北地域の在宅支援者の助けになると考えます。

(回答)

【一戸病院】

ご意見ありがとうございました。夜間休日に救急車で搬送されるも、入院とならなかったケースにつきましては、基本的に患者さんまたはご家族にお願いし、ご帰宅いただいておりますが、帰宅する方法が全く無いケースもございます。その際にサービスを利用されている患者さんであると情報があった場合には、帰宅方法についてケアマネジャーさんに相談させていただくことがございます。大変ご迷惑をお掛けしておりますが、当院でも対応に困っている状況でございます。

解決方法につきまして、二戸地域の市町村や地域の会議等の場で協議させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○ 佐藤美沙子委員

- ・この度、県立病院の現状と課題又、業務状況等の資料を読ませて戴きまして、いかに大変な中で私達の為に病院の皆様が働いて下さっているかが分かり、頭が下がる思いです。

令和6年の4月から医師の働き方改革が始まるとの事ですが、大賛成です。私達が医療機関を適切に利用することで、診療への影響をおさえることが出来、いわての医療を支える力になれることは、大事な事だと思います。大いに推進していただきたいと思います。

- ・(質問) 大腸ガンの内視鏡検査ですが、二戸病院では無痛による検査は行わないのでしょうか？ 苦痛に思っやらない方も多くいるのではと思いますが如何でしょうか？

(回答)

【二戸病院】

・医師の働き方改革を踏まえ、今後医療機関における適正受診について地域住民に対し丁寧に説明し、推進していきたいと考えております。
・無痛による大腸内視鏡検査についてですが、鎮静剤の使用は高齢者にとってリスクが高いこと、また1人当たりの所要時間が長く、1日当たりの内視鏡検査数の制限が必要なことから、現状の検査数では難しい現状がありますのでご理解の程お願いいたします。ただし患者さんの状況によっては、必要に応じ入院で無痛検査をさせていただく場合もございます。

- 永井美保子委員（新岩手農業協働組合女性部北部支部軽米地区）

- ・令和4年度の取組の電子処方せんはどういうものですか。
- ・勉強不足により、カタカナ語の意味が分からないものが多く理解出来かねます。コメ印等で説明をお願いします。
- ・その他の取組内容をもう少し詳しく教えてください。

(回答)

【医療局】

電子処方せんとは、これまで紙で発行していた処方せんを電子化したものです。患者さんが電子処方せんを選択し、医師・歯科医師・薬剤師が患者さんのお薬情報を参照することに対して、同意をすることで、複数の医療機関・薬局をまたがる過去のお薬情報にもとづいた医療を受けられるようになります。結果として、今まで以上に安心してお薬を受け取ることが可能となります。

【厚生労働省ホームページより】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/denshishohousen_kokumin.html

県立病院では、令和4年度に電子処方箋機能の開発を行い、令和5年度に運用開始を予定しているところ。

【二戸病院】

・用語について分かりづらいとのご指摘ありがとうございます。当協議会にあつては、地域の関係団体との協議により地域住民の医療及び保健衛生の向上に寄与することを目的としていることから、円滑に協議を進めるためにも、資料作成における分かりやすい表記に留意してまいります。
・その他の取組内容の詳細につきまして、今年度は書面開催としたことから資料の補足説明等が不足し申し訳ありません。来年度におきましては集合形式での開催を予定していることから、丁寧な説明に努めたいと存じますのでよろしく申し上げます。

- 佐藤勝子委員（軽米町保健推進員協議会会長）

- ・県立病院の職員の方々には、新型コロナウイルス感染症への対応をいただきながらの日々のお仕事に感謝申し上げます。
前回もお伝えさせていただきましたが、意見といたしますか、希望ですけれども、二戸地域でのお産が安心して行われるよう、どのような妊婦さんも診察、出産が叶いますよう産婦人科の体制の存続をいただきたいと思っております。
また、小児科につきましても軽米病院に小児科があることで大きな安心につながっております。管内の県立病院の小児科診療の現状を維持していただけますよう希望します。
さらに、住民目線でお話しさせていただきますと、二戸病院には総合病院として、たくさんの科を充実していただきたい気持ちがあります。可能であれば例えば眼科手術も行えるような体制を希望します。

(回答)

【医療局】

二戸地域の産婦人科及び小児科の体制については、二戸病院は岩手県の地域周産期母子医療センターとして周産期にかかる高度な医療を提供する役割を担っており、令和5年2月現在、産婦人科6名、小児科2名の常勤医師を配置しています。また、軽米病院には小児科の常勤医師を1名配置し、医療体制を維持しているところです。

また、二戸病院の眼科については、令和5年2月現在で1名の常勤医師を配置し、手術を行える体制を整備しており、白内障をはじめ様々な手術を行っています。

今後においても、引き続き、関係大学へ医師の派遣を要請するとともに、即戦力となる医師の招へいや奨学金養成医師の計画的な配置を行うなど、二戸地域の医療体制の充実に向けて取り組んでいきます。

- 中野美枝子委員（九戸村保健推進員協議会会長）

- ・コロナ禍での病院職員の皆様の業務、又患者への対応感謝しております。九戸地域診療センターの存続、常勤医師の確保、お願いしたいと思います。

(回答)

【医療局】

九戸地域診療センターについては、住民に身近な医療を担う医療機関としての役割を果たしていくため、診療応援等により医療提供体制の確保に努めているところです。

令和5年2月現在、同センターには常勤医師1名を配置しているほか、二戸保健医療圏内の他の県立病院から応援の医師を派遣し、診療体制を維持しているところです。

引き続き、他の病院からの応援により診療体制の充実を図るとともに、関係大学への医師の派遣を要請するほか、即戦力となる医師の招へいや奨学金養成医師の計画的な配置などを行い、常勤医師の確保に取り組んでいきます。

- 山本賢一委員

- ・軽米病院とはこれまでも良好な地域連携をしていただいております、感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

- 田名部晴夫委員

- ・運営関係の皆様には心から感謝申し上げます。今後共、医師確保に努力される事をお願いします。

- 八森百合子委員

- ・二戸地区の医療に頑張って下さい。

- 日向和彦委員

- ・職員の皆様には頑張って頂いております感謝申し上げます。

- 山口金男委員

- ・適切な運営が行われていると思います。

以上